

式 辞

柔らかな日差しに春の訪れを感じる今日の佳き日、第75回卒業証書授与式を挙げて下さることに、大きな喜びを感じております。

卒業証書を手にした20名の皆さん、卒業おめでとうございます。今日は、これまでの集大成であり、みんなで過ごす大切な時です。万感の思いを込めて、みなさんらしい卒業式を創り上げましょう。

あの震災から11年、様々な環境の移り変わりを経験し、大人たちが懸命に復興に取り組む中、みなさんも協力して新たな豊間中をつくって来ました。みなさんの明るい笑顔、元気な声、みなさんの存在そのものが、豊間の希望であったと思います。

さらに、コロナウイルス感染拡大により、多くの面で様々な制約を余儀なくされました。中でも、できることを工夫し、ピンチをチャンスに代え、明るく生活するみなさんの姿に何度も力づけられました。

さて、卒業生のみなさんは、まさに学校の顔として様々な場面で活躍しました。学校行事や委員会活動、中体連、その他多くの活動において、みなさんが記した足跡は、豊間中の伝統を築く大きな一歩になったと思います。

卒業生のみなさんで特筆すべきことは、とても素直な生徒たちだということです。日々の生活において、話を聞くときのまっすぐな目はきらきらと輝いていました。

生徒会の企画・運営による集会や行事の時、役員の説明をよく聞き、楽しい時間にするためにはどのようにしたらよいかと考えることを考え、行動していました。その時も、まず「素直に受け入れる」という姿勢がなければ集団での行動は成立しません。皆さんは1、2年生をリードしながら、素直に活動し、楽しむことができたと思います。

2回にわたって日程や内容が変更になった修学旅行。旅行先で目にするもの、初めて体験すること、すべてにわたって、素直に楽しむ皆さんの感性は、ともしなやかで、豊かなものであったと思います。

また、2学期半ばからは、希望する進路の実現に向けて、学習に集中するクラスを創り上げてきました。「受験は団体戦」とも言われますが、それぞれが抱えている不安感をお互いに素直に感じ取り、温かい雰囲気に変えることによって、支え合い、活力に代えていきました。

もちろん、これまでには、様々なぶつかり合いや行き違いがあったことでしょう。その度ごとに、話し合い、考え、気持ちを整理して、今のクラスをつくってきたはずです。

学級担任の鈴木彰太先生に、皆さんに最も伝えたいことは何か、ということ伺ったところ、「本気になるべき時は本気でいなさい。やる時はやる。」ということだそうです。そのためには、まず、自分の現状を客観視する勇気と、自分の思いを高めていく、熱い熱い気持ちが必要ではないかと思えます。みなさんは日々の生活から、そのことを学びとり、自分の力としていったはずです。

これから皆さんは、おもしろいこと、うれしいこと、また、辛いことや悔しいことなど、様々な体験をすることでしょう。これからの十年、最も感性が豊かな時に、たくさんの人に出会い、多くの感動を味わってください。そして、「自分はどのように考えるのか、何をするのか」と問い続けてください。みなさんにはできることが、たくさんあります。また、あなたにしかできないこともあるはずです。世の中をつくり支える力をたくわえてください。

今日が、自分を発見する長い旅の第一歩です。元気に踏み出しましょう。この豊間中学校で仲間や先生方と出会い、語り合い、元気に成長した皆さんの巣立ちを心から祝福いたします。

結びに、保護者の皆様並びに地域の皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、卒業生の未来が輝かしいものになることを心から願い、式辞といたします。

令和4年3月11日

いわき市立豊間中学校長 新家 弘久

